

# 社会スキルの実施について

令和5年(2023年)熊本県立湧心館高等学校

## 1 社会スキルとは

障がいのある生徒の学習上または生活上の困難を主体的に改善、克服を目指します。そのため、生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導内容を設定して支援を行っています。

## 2 受講者の決定方法

- 2, 3年生が対象です。  
(理由: 1年生は必修科目が多く、時間割に設定することが難しい)
- 学年会等で受講の必要性が高い生徒を挙げてもらい、対象の生徒と保護者に対して学校から個別に案内を行っています。
- 受講の内諾後、通級指導委員会の検討を経て正式に受講者を決定します。

## 3 教育課程上の位置づけ

- 教科名は「自立活動」で、本校では「社会スキル」と呼んでいます。  
2年生は「社会スキルA」、3年生は「社会スキルB」という名称です。
- 選択教科に替えて行う教育課程として実施しており、年間2単位です。
- 1年生については、次年度からの受講予定者に対して、月に1回程度、放課後等に面談を実施します。

## 4 社会スキルの指導内容

- 特別支援学校の自立活動の内容を取り入れた学習を実施しています。
- 各教科の補充学習等は基本的に行わず、受講生徒の実態に応じてコミュニケーションやストレスマネジメント等に取り組んでいます。
- 3年生では、求人票の見方や履歴書の書き方等に対する個別指導も行っています。



## 5 成果

- 表情に乏しかったり、会話を続けたりすることが難しかった生徒が、授業回数を重ねるごとに感情表現が豊かになり、自分のことを話すようになりました。授業参観等で他の職員が参加した時も、落ち着いて会話を楽しむ様子が見られています。

# LST（ライフスキルトレーニング）の実施について

令和5年(2023年)熊本県立松橋高等学校

## 1 LST（ライフスキルトレーニング）とは

OLSTでは、本人やご家族の困りや不安に寄り添い、学習上、または生活上の困難の改善・克服のための取り組みをしながら進路実現を目指します。

## 2 受講者の決定方法

### ○新入生の場合

- ①入学前の合格者説明会の際、新入学予定者と保護者に周知し、希望者と面談します。
- ②面談内容をふまえ校内委員会（入級検討委員会）を開催し、審議します。
- ③各家庭に通知文を送付し、開講します。

### ○在校生の場合

- ①週に1回の会議で問題行動や成績不振、欠課時数の増加など生徒情報を共有します。
- ②会議や担任との情報共有をとおして、LSTの必要性を検討します。
- ③本人・保護者の希望があれば、三者面談を行い、LSTの体験の機会を設けます。
- ④「新入生の場合」の②～③と同様の手続き等で、次年度から入級を認めます。

## 3 教育課程上の位置づけ

○通常授業1から6限目、終礼の終了後、7限目に実施しています。

○週に1時間の増加単位です。

○単位認定には「年間の出席時数が年間の授業時間の2/3以上」と

「個別の指導計画の目標が達成されたと校長によって認められる」ことを必要とします。



## 4 LST（ライフスキルトレーニング）の指導内容

○日頃は、SST、自己理解、ストレス対処教育、生活プランニングなどを実施しています。

○「外部講師による指導」として、「就労移行支援センターらぽーる宇城」の支援員から簡易的な就労アセスメントを受けたり、「若者サポートステーション」のキャリアコンサルタントのお話を聞いたりして、就労の心構えをしていく機会も設けています。

## 5 成果

○様々な機会を設けて自己理解を深めながら、手帳使用やアンガーマネジメントの習慣化を促し、自他の個性や特性との向き合い方を模索させています。

○定期考査に向けて学習計画を立てたり結果を振り返ったりする機会を設けることで、学習に対して目標と見通しをもてるようになっていきます。

○SSTや言動の振り返りをとおして、相手の表情や言動から気持ちを想像したり、自分の行動を客観的に理解し調整しようとしたりするようになっていきます。

○インターンシップ参加生徒が受講する事前指導と類似した活動を行ない、少しでもインターンシップや就職に対するハードルが低くなるようにしています。

○生徒自身に「個別の教育支援計画」の作成や評価に関わらせたり3年生で種々の相談機関について知らせたりすることで、自己理解を深めるとともに、「どのようなときに、どこにどのような支援を求めたら良いか」を知る機会になっています。

# 自立活動「ライフスキル」の実施について

令和5年(2023年)熊本県立菊池農業高等学校

## 1 自立活動ライフスキルとは

個々の生徒が自立を目指し、学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度、及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を養うことを目的として指導を行います。苦手なことや困っていることを解決したり、うまくいくようにしたりするために、必要なことを学ぶ授業です。

## 2 受講者の決定方法

- ①「ライフスキル」の概要をまとめた案内文書を作成し、生徒・保護者に配付します。
- ②受講を希望する生徒・保護者と面談を実施し、「ライフスキル」の目的や内容、評価について説明し、体験活動を行います。
- ③校内委員会で「ライフスキル」が必要か判断し、校長が受講者の決定を行います。(受講できる人数は限られています。)



### 【大切なこと】

- 本人に苦手なこと、困っていることがあり、学ぶ気持ちがあること
- 保護者の同意があること
- 1～6限の通常の授業に参加できること

## 3 教育課程上の位置づけ

- 第2・3学年において、週1回、放課後の7限目に実施しています。(右に例示)
- 第1学年の間は実態把握を行い、3学期から体験活動を実施します。(2・3年生の体験授業も随時実施。)
- 履修した生徒には、職員会議を経て増加単位1単位を認定します。
- 教科の学習や補習は行いません。

	月	火	水	木	金
1	英語	専門	LHR	専門	専門
2	専門	専門	専門	科学	世界史
3	専門	専門	国語	専門	英語
4	専門	専門	世界史	専門	体育
5	現代文	専門	専門	体育	科学
6	体育	専門	専門	専門	現代文
7			LS		

※LS = ライフスキルの略

## 4 自立活動ライフスキルの指導内容

自己理解、コミュニケーション、人間関係、感情と行動のコントロール、ストレスマネジメントなど、学習内容は生徒一人一人に応じて計画し実施します。基本的には個別または少人数での指導となります。

- (例) ・自分の考えや気持ちを分かりやすく伝えたり、順序立てて話すなどのコミュニケーションに関する指導
- ・ストレスマネジメントやアンガーマネジメントの学習 など

## 5 成果

- 生徒たちからは、「この1時間があるから日々の学校生活を頑張れる!」、「この授業では安心して自分を出せる!」、「自分の気づかない長所を知ることができ、自信が持てた」、「将来に役立つことを学べてよかった」などの声が聴かれます。
- コミュニケーションの表現方法が増え、自分なりに自己表現をしたり、困ったときに相談したりする場面が増えてきました。



# ライフスキルの実施について

令和5年(2023年)熊本県立岱志高等学校

## 1 ライフスキルとは

通常の学級に籍を置きながら、障がいに応じた特別の指導として「自立活動」の内容を取り入れた授業を行う。自立活動では、個々の生徒が自立を目指し、障がいによる学習上または生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、心身の調和的発達を基盤を培うことを目標とした指導をする。これまでの個別の支援に加え、さらにきめ細かい指導や支援が可能となることにより、生徒本人の学習意欲や自己肯定感の向上、心理的な安定につながる効果が期待される。

## 2 受講者の決定方法

学校生活上困り感や不安を抱えている生徒（自閉症者（ASD）、情緒障害者、学習障害者（LD）注意欠陥多動性障害者（ADHD）を対象としている。障害が明らかでない生徒も対象者とし、本人、保護者のニーズをもとに校内委員会等で検討し、対象を選定する。通級指導を受講するための基本的事項として、①本人が通級指導を希望していること、②保護者が通級による指導を希望して協力的であること、③本人に困っていることがあることを掲げている。

生徒、保護者へのアナウンスは合格者説明会や教育課程説明会で実施し、入学前相談や巡回相談の際に生徒・保護者に案内し、ライフスキルの受講希望を確認している。希望生徒は通級担当者と面談（体験版）を実施し、実態把握や信頼関係の構築を図りながら、対象生徒への指導内容を検討していく。

## 3 教育課程上の位置づけ

増加1単位として単位認定し（2，3年生）、放課後7時間目に加えて1時間で実施している。1年生、その他の2，3年生は体験として、月1～2回程度で実施している。

## 4 ライフスキルの指導内容

生徒一人一人の困り感に合わせ、生活面・情緒面の自立活動を行う。対象生徒一人に対し、1～2名の指導者で担当している。主たる指導者が授業を展開し、それ以外の指導者で生徒と共に授業内の活動に参加している。

## 5 成果

会話やゲーム、ロールプレイを混ぜながら和やかな雰囲気の中で授業を展開し、継続した受講に繋げている。また、カードゲームを使い、楽しくコミュニケーションスキル向上を図る。受講した生徒はコミュニケーション力を上げ、良好な人間関係作りに役立て、話の聴き方話し方を身につけている。今年度ライフスキルを受講している生徒同士の関係性作りに困り感を持っている状況が発覚した。それぞれにアサーションスキルトレーニングを実施したことで、良好な関係性作りに近づくことができた。

# ライフスキルの実施について

令和5年(2023年)熊本県立天草拓心高等学校(本渡校舎)

## 1 ライフスキルとは

○個々の生徒の自立に向けて、生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養うことを目標として行っている。特に心身の調和的発達の基盤を築くための支援を行っていくことで、生徒本人の学習意欲や自己肯定感の向上、心理的な安定が図られることを目指している。

## 2 受講者の決定方法

○自閉症、情緒障がい、学習障がい、注意欠陥多動性障がい等のあるなしに関係なく、本校に在籍する学校生活上の困り感や不安を抱えている生徒で、その保護者とともに受講を希望している場合には、校内委員会の審議の後、受講を許可している。なお、受講の開始は2学年(もしくは3学年)になる年度の始まりからとし、その前年度には体験受講を受けることができる。

## 3 教育課程上の位置づけ

○本校では、通常の教育課程に“加えて”履修する形(通常の6限授業の日課が終了した後に7限目の授業を行う形)を取っており、原則週1回、個別授業形式で1年間の授業を行っている。1年間の履修をとおして、その成果が学習目標を満たしていると校内委員会で認められた場合には、1単位の増加単位を得ることが出来る。2学年時の年度末に、さらに次年度も続けて受講を希望する場合には、再度校内委員会での審議を経た後、3学年時での受講を許可する。3学年時の学習成果が認められた場合には、さらに1単位の増加単位を修得することもできる。

## 4 ライフスキルの指導内容

本校で行う授業内容の一例として以下のようなものがある。

- いろいろなコミュニケーション活動をとおして、相手の立場やその場の状況に応じた言葉かけができるようになる。
- いろいろなシチュエーションを設定し、その場で使える言葉や使わない方が良い言葉などを学習していく。
- 自分の思いを伝え合う活動を繰り返し行うことで、自分の中で自信を持って使える言葉を増やしていく。

## 5 成果

ライフスキルを受講したことで、以下のような違いを感じることができました。

- 自分自身の心理的な安定を図ることがよりできるようになり、他者に対して寛容の心をより広く持って対応することができるようになった。
- 自己肯定感の低さや何でもないことをマイナスに考えてしまう思考の偏りが感じられたが、徐々に自分に対する自信を持てるようになってきたのか笑顔が増えてきた。
- いろいろな場面でどのように行動をした方が良いのかについて考えを深めることができるようになった。

# 「ライフスキル」の実施について

令和5年(2023年)熊本県立翔陽高等学校

## 1 「ライフスキル」とは

- 「ライフスキル」では、自立活動をとおして、心理的な安定を得ると共に、学習意欲や自己肯定感の向上につながるよう、生徒が抱える学習上・生活上の困難さを改善・克服するために必要なスキルの習得を目指します。

## 2 受講者の決定方法

- 受講を希望する生徒及びその保護者と面談を実施し、「ライフスキル」の目的や内容、評価について説明します。
- 生徒面談や体験版授業を実施し、受講の可否を判断する情報を収集します。
- 校内委員会で「ライフスキル」の受講の必要性を検討し、その報告に基づいて、校長が受講者の決定を行います。



## 3 教育課程上の位置づけ

- 「ライフスキル」は、2・3年次の選択科目の一つとして設定しています。

受講者は、2年次で「ライフスキルA」、3年次で「ライフスキルB」を選択することができます。

2年次、3年次で継続して履修することもできます。

また、2年次、3年次のいずれかで履修することも可能です。

「ライフスキル」の授業は週2回（2単位）あります。

	月	火	水	木	金	土	日
1							
2							
3			■				
4							
5				■			
6							
7							

## 4 「ライフスキル」の指導内容

- 指導内容は受講者一人一人の実態や教育的ニーズに応じて決定します。

(例) ・自己理解(性格、得意、不得意、苦手なことへの対処法)

・手帳を活用したスケジュール管理

・コミュニケーション(会話、報告、依頼、質問、意見を言う、話し合う、説明する、教える)

・ストレスマネジメント

・進路学習(進路志望先の学習、求人票の見方、志望理由書の書き方、面接練習など)



## 5 成果

- コミュニケーションに関する自立活動を行い、自分から人に話しかけたり、友人と一緒に行動したりできるようになりました。

- 進路学習で意欲が高まり、人前で話す苦手さを克服し、受験面接で堂々と話すことができました。

- (生徒の感想より)「初対面の人とも話しやすくなった。」「思っていることをすっと言えるようになった。」「説明する力がついた。」「感想などをすぐ書けるようになった。」「スケジュール管理ができるようになった。」

# ライフスキルの実施について

令和5年(2023年)熊本県立阿蘇中央高等学校阿蘇清峰校舎

## 1 ライフスキルとは

○本校のライフスキル(教科名:自立活動)とは、生徒自身が学習上又は生活上の困難を改善・克服する力を見につけることで、通常の学級での学習の理解が進んだり、学級活動・部活動等における人間関係が円滑になるなど、より充実した学校生活を送ることができるようになることを目指している。

## 2 受講者の決定方法

- (1) 年度当初、「育友会総会」において、「通級による指導」の概要をまとめた案内文書を作成し、全ての生徒・保護者に配布する。
- (2) 受講希望の生徒・保護者と面談を実施し、同時に、学年会や支援班会議、生徒サポート委員会(特別支援教育推進委員会)での検討、本校巡回相談員への相談、SSW・SCと連携等を図り、「通級による指導」が必要か判断する。
- (3) その後、生徒・保護者へ「通級による指導」の詳細説明・ライフスキル受講願い提出後、校長が受講者の決定を行う。

## 3 教育課程上の位置づけ

- (1) 阿蘇中央高校阿蘇清峰校舎2・3年生の生徒を対象とする。
- (2) 1年生は、教育的ニーズを明確化する期間として捉え、生徒の学習・生活状況を把握し、面談や体験の授業を通じて、2年次以降からの実施へと繋ぐ。1年次での教育課程への位置づけは行わない。
- (3) 本校の「通級による指導」は、通常の教育課程に加えて履修する形(7限目突き出し1時間)とする。原則として週に1回とし、個別指導形式で月曜から金曜のいずれかに曜日を固定して実施する。
- (4) ライフスキル教室(阿蘇清峰校舎理科室棟3階)

## 4 ライフスキルの指導内容

○指導内容は個別の指導支援シートや個別の指導支援計画を参考にし、生徒の実態に即した指導を行う。

(例)

- (1) 具体的な場面で、自分の認知(物事の捉え方)の特徴に気づくことができるように指導する。
- (2) 学校や進路先における人(先生や先輩・後輩または社会人の方々)との関わり方を意識した内容のSST(ロールプレイ)を行い、物事の善悪が判断できるように指導する。

## 5 成果

○自立活動を通して、相手の目を見て会話ができるようになっただけでなく、自ら進んで話ができるようになった。



# 自立活動「アクティブライフスキル」の実施について

令和5年(2023年)熊本県立八代農業高等学校

## 1 「アクティブライフスキル」とは

- 「アクティブライフスキル」では、自立活動をとおして、生徒が抱える学習上・生活上の困難を改善・克服するために、必要なスキルの習得を目指します。個別の支援計画を作成し、きめ細やかな指導を行ない、生徒本人の学習意欲や自己肯定感の向上、心理的な安定につなげ、より充実した学校生活を送ることができるようになることを目指します。

## 2 受講者の決定方法

- ①PTA総会において「通級による指導」の概要をまとめた文章を作成し、全ての保護者へ配付します。(R5年度は対象学年のみ)
- ②受講を希望する生徒及びその保護者と面談を実施し、「アクティブライフスキル」の目的や内容、評価について説明します。また、1学期の校内生徒理解研修において検討し、特別支援推進委員会にて「通級による指導を進める」と判断した場合には個別に生徒及び保護者へ面談を実施し、案内をします。
- ③校内委員会にて「アクティブライフスキル」の受講の必要性を検討し、その報告に基づいて、校長が受講者の決定を行ないます。

## 3 教育課程上の位置づけ

- 2・3学年を対象とし、週に1回程度、放課後の7時限目に実施します。
- 1学年または新たに希望する2学年の生徒においては、教育的ニーズの明確化、学習・生活状況の把握、面談や体験の実施ののち、2学年(3学年)以降からの実施へつなげます。
- 履修した生徒には、職員会議を経て単位1単位を認定します。
- 教科の学習や補習は行ないません。

	月	火	水	木	金
1					
2					
3					
4					
5					
6					

通級による指導を放課後に1時間加えています。

通級

## 4 自立活動「アクティブライフスキル」の指導内容

- 指導内容は受講者一人一人の実態や教育的ニーズに応じて決定します。
- 生徒が楽しみながら自己の課題を改善・克服することができ、「また参加したい!」と思うことができる充実した内容の工夫を行ないます。  
(例)・自己理解(得意・不得意・苦手なことへの対処法)
  - ・コミュニケーション
  - ・ソーシャルスキルトレーニング
  - ・アンガーマネジメント
  - ・手帳を活用したスケジュール管理、自己理解



## 5 成果

- 指定初年度のためR5年度は体験版を実施し、R6年度より本格的に実施予定です。